

Ⅱ 国語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域1事項を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の概要と分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。

（◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント）

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語についての知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい		評価の観点							
					1	2	3	4	5			
読むこと	1	問一	物語の特徴をとらえて、短い言葉を使って適切に表すことができる。					○	○			
		問二	物語上の登場人物の役割を理解することができる。					○				
		問三	文章を注意しながら読み、話のあらすじをまとめることができる。					○				
		問四	文章を読んだ感想を、条件に応じて書くことができる。	感想と理由	○			○				
				引用または要約	○			○				
			字数	○			○					
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	問一	(1)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。	さ(指)					○		
			(2)		りょう(漁)					○		
			(3)		当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	落					○	
			(4)			親切					○	
			(5)			市場					○	
		問二	(1)	文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。	主語					○		
					述語						○	
					(2)	主語						○
						述語						○
		問三		熟語の意味を理解し、使うことができる。	売買					○		
					高低						○	
		問四	(1)	辞書を利用して調べるために、「言い切り」の形に直すことができる。						○		
			(2)								○	
		話すこと・聞くこと	3	問一	目的に応じて、事例を挙げながら筋道立てて、丁寧な言葉を用いて話すことができる。	内容	○	○				
						敬体と字数	○	○				
				問二	相手を見たり言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。	1		○				
3						○						
書くこと	4		文章全体における段落の役割を理解することができる。					○				
	5	ア	書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。		○			○				
		イ			○			○				

2 調査結果の概要と分析

全体	◇全体の正答率は71.2%であり、昨年度の75.5%と比較して4.3ポイント下回った。その要因としては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が昨年度より下回ったためであると考えられる。 ◇「書くこと」の平均正答率については52.4%であり、昨年度の42.9%と比較して、9.5ポイント上がった。しかし、正答は依然として半数程度である。 ◇「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率については、66.9%、64.8%、82.4%と昨年度並みである。 ◆各領域において、目的に応じて要約や引用をしたり、理由や事例を挙げたりして記述することに課題がある。								
領域別	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="244 483 323 891">話すこと・聞くこと</td><td data-bbox="323 483 1418 891"> ◇スピーチ場面での音声言語に関する知識を問う選択式の設問では、「説明の途中でグラフ等の資料を示しながら話す」とよいことは、平均正答率が86.7%であった。しかし、「話が相手に伝わっているか聞き手の顔を確認しながら話す」とよいことは、平均正答率が58.1%であった。 ◆目的に応じて、資料から理由や事例を挙げながら筋道を立てて話すための問題については、55.4%の平均正答率であった。自分の体験をもとに理由を述べてしまうなど、与えられた資料から理由を取り出すという条件を理解していなかったと考えられる。 ○スピーチ指導においては、実際のスピーチの場面で声の大きさや速さ、間の取り方等の指導の他にも、目線など、より聞き手を意識した話し方を指導するとよい。その際、ボイスレコーダーやデジタルカメラの動画機能等を使用して、自分の話している様子を自分で確認できるようにするとよい。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="244 891 323 1234">書くこと</td><td data-bbox="323 891 1418 1234"> ◆文章の内容に合わせて小見出しを書く問題については、平均正答率が50.5%であった。誤答を見ると、他の二つの小見出しの構文に合わせて書くことに課題があることが分かる。 ◆報告文から説明書に書き直すために、文の一部を取り出して箇条書きにする問題については、56.1%と50.6%であった。誤答を見ると、順序を表す言葉の扱い方や文末の書き方について課題があることが分かる。 ○小見出しを考える学習をする際の付けたい力を明確にするとよい。キーワードやキーセンテンスの見付け方、表記の仕方等、内容にかかわらず、いつでも活用できる知識を得る場を確保することが大切である。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="244 1234 323 1473">読むこと</td><td data-bbox="323 1234 1418 1473"> ◇登場人物の役割を読み取る設問については、平均正答率が82.9%であった。 ◆自分の感想を書く設問については、条件に応じて書くことを求めた。感想とその理由を書くことの平均正答率は、69.6%であり、引用または要約したものを書くことの平均正答率は、57.4%であった。 ○引用や要約の指導をする際には、目的を明確にして、目的に応じて述べるための指導を行うことが必要である。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="244 1473 323 1787">語伝の統的質に言語文化と事項</td><td data-bbox="323 1473 1418 1787"> ◇漢字の読み書きの設問については、平均正答率が80%前後であったが、「親切」を書く設問のみ、56.3%であった。「親」を「新」としてしまっていたり、「切」が書けなかったりしたためである。 ◇言葉を「言い切り」の形にする設問については、90.3%と95.2%であった。良好であると言える。 ◇主語と述語の基本的な理解については、おおむね良好である。 ○得た知識を定着させるために、短文作りや言葉集め等を行う場を意図的に設定するとよい。 </td></tr> </table>	話すこと・聞くこと	◇スピーチ場面での音声言語に関する知識を問う選択式の設問では、「説明の途中でグラフ等の資料を示しながら話す」とよいことは、平均正答率が86.7%であった。しかし、「話が相手に伝わっているか聞き手の顔を確認しながら話す」とよいことは、平均正答率が58.1%であった。 ◆目的に応じて、資料から理由や事例を挙げながら筋道を立てて話すための問題については、55.4%の平均正答率であった。自分の体験をもとに理由を述べてしまうなど、与えられた資料から理由を取り出すという条件を理解していなかったと考えられる。 ○スピーチ指導においては、実際のスピーチの場面で声の大きさや速さ、間の取り方等の指導の他にも、目線など、より聞き手を意識した話し方を指導するとよい。その際、ボイスレコーダーやデジタルカメラの動画機能等を使用して、自分の話している様子を自分で確認できるようにするとよい。	書くこと	◆文章の内容に合わせて小見出しを書く問題については、平均正答率が50.5%であった。誤答を見ると、他の二つの小見出しの構文に合わせて書くことに課題があることが分かる。 ◆報告文から説明書に書き直すために、文の一部を取り出して箇条書きにする問題については、56.1%と50.6%であった。誤答を見ると、順序を表す言葉の扱い方や文末の書き方について課題があることが分かる。 ○小見出しを考える学習をする際の付けたい力を明確にするとよい。キーワードやキーセンテンスの見付け方、表記の仕方等、内容にかかわらず、いつでも活用できる知識を得る場を確保することが大切である。	読むこと	◇登場人物の役割を読み取る設問については、平均正答率が82.9%であった。 ◆自分の感想を書く設問については、条件に応じて書くことを求めた。感想とその理由を書くことの平均正答率は、69.6%であり、引用または要約したものを書くことの平均正答率は、57.4%であった。 ○引用や要約の指導をする際には、目的を明確にして、目的に応じて述べるための指導を行うことが必要である。	語伝の統的質に言語文化と事項	◇漢字の読み書きの設問については、平均正答率が80%前後であったが、「親切」を書く設問のみ、56.3%であった。「親」を「新」としてしまっていたり、「切」が書けなかったりしたためである。 ◇言葉を「言い切り」の形にする設問については、90.3%と95.2%であった。良好であると言える。 ◇主語と述語の基本的な理解については、おおむね良好である。 ○得た知識を定着させるために、短文作りや言葉集め等を行う場を意図的に設定するとよい。
話すこと・聞くこと	◇スピーチ場面での音声言語に関する知識を問う選択式の設問では、「説明の途中でグラフ等の資料を示しながら話す」とよいことは、平均正答率が86.7%であった。しかし、「話が相手に伝わっているか聞き手の顔を確認しながら話す」とよいことは、平均正答率が58.1%であった。 ◆目的に応じて、資料から理由や事例を挙げながら筋道を立てて話すための問題については、55.4%の平均正答率であった。自分の体験をもとに理由を述べてしまうなど、与えられた資料から理由を取り出すという条件を理解していなかったと考えられる。 ○スピーチ指導においては、実際のスピーチの場面で声の大きさや速さ、間の取り方等の指導の他にも、目線など、より聞き手を意識した話し方を指導するとよい。その際、ボイスレコーダーやデジタルカメラの動画機能等を使用して、自分の話している様子を自分で確認できるようにするとよい。								
書くこと	◆文章の内容に合わせて小見出しを書く問題については、平均正答率が50.5%であった。誤答を見ると、他の二つの小見出しの構文に合わせて書くことに課題があることが分かる。 ◆報告文から説明書に書き直すために、文の一部を取り出して箇条書きにする問題については、56.1%と50.6%であった。誤答を見ると、順序を表す言葉の扱い方や文末の書き方について課題があることが分かる。 ○小見出しを考える学習をする際の付けたい力を明確にするとよい。キーワードやキーセンテンスの見付け方、表記の仕方等、内容にかかわらず、いつでも活用できる知識を得る場を確保することが大切である。								
読むこと	◇登場人物の役割を読み取る設問については、平均正答率が82.9%であった。 ◆自分の感想を書く設問については、条件に応じて書くことを求めた。感想とその理由を書くことの平均正答率は、69.6%であり、引用または要約したものを書くことの平均正答率は、57.4%であった。 ○引用や要約の指導をする際には、目的を明確にして、目的に応じて述べるための指導を行うことが必要である。								
語伝の統的質に言語文化と事項	◇漢字の読み書きの設問については、平均正答率が80%前後であったが、「親切」を書く設問のみ、56.3%であった。「親」を「新」としてしまっていたり、「切」が書けなかったりしたためである。 ◇言葉を「言い切り」の形にする設問については、90.3%と95.2%であった。良好であると言える。 ◇主語と述語の基本的な理解については、おおむね良好である。 ○得た知識を定着させるために、短文作りや言葉集め等を行う場を意図的に設定するとよい。								
継続してみられる課題	◆目的や条件に応じて記述することに課題がみられる。以下の点を指導するとよい。 ・「何のために（相手意識や目的意識）」を明確にすること ・「どのように（文字数、内容等の条件）」を明確にすること ・文末（常体か敬体か、呼び掛けか問い掛けか、自分の考えか事実か 等）を意識させること ・要約や引用の仕方を明確にすること								

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 読むこと

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1		田中さんは、「ごんぎつね」の学習をした後、同じ作者の新見南吉さんが書いたきつねの物語「手ぶくろを買いに」を友だちに読んでもらえるよう、しょうかいポスターを作っています。次の文章は、「手ぶくろを買いに」の一部です。 よく読んで、あとの問いに答えましょう。						
	問一	田中さんは、友だちに読んでもらうためにはポスターの ☐ ア のところに、読み手を引きつけるような見出しを工夫してつけたほうがよいと考えました。くふうした見出しとして、もっともふさわしいものを下の1～4の中から一つ選んで記号で答えましょう。 1 「手ぶくろを買いに」を読んで 2 母さんぎつねと子ぎつね 3 人間の手に変えられてしまった子ぎつねの手 4 人間ってかわいいもの？ それとも・・・	4	1		59.7	1.5	75
	問二	田中さんは、母さんぎつねと子ぎつねがそれぞれ人間のことをどう思っているかを、 ☐ イ と ☐ ウ に書きます。その組み合わせとして正しいものを次の1～4の中から一つ選んで、記号で書きましょう。 1 ☐ イ こわいもの ☐ ウ こわいもの 2 ☐ イ ちっともおそろしくない ☐ ウ ちっともおそろしくない 3 ☐ イ こわいもの ☐ ウ ちっともおそろしくない 4 ☐ イ ちっともおそろしくない ☐ ウ こわいもの	3	1		82.8	1.4	75
	問三	☐ エ には、話の内容をしょうかいする文を書きます。「寒い冬の夜、子ぎつねは、母さんぎつねからもらったお金を持って、手ぶくろを買いに町のお店にひとりでいきます。」に続けて、文章中のA……の部分のあらすじを書きます。A……のあらすじの内容としてもっともふさわしいものを次の1～4の中から一つ選んで、記号で書きましょう。 1 子ぎつねはその光がまばゆかったので、面くらって、まちがったほうの手をすきまからさしこんでしまいました。 2 ぼうし屋さんに「先にお金をください。」と言われて、子ぎつねはすなおにお金をわたしたのでよかったです。 3 子ぎつねは、お母さんに「出しちゃだめよ。」と言われた、まちがったほうの手を出してしまったけれど、手ぶくろを買うことができました。 4 子ぎつねは、「このおててにちょうどいい手ぶくろください。」と、まちがったほうの手を出してしまいました。手ぶくろを買うことができてよかったと思います。	3	1		40.1	1.7	60
	問四	☐ オ には感想を書きます。あなたならどのように書きますか。あなたの感想を次の【注意】に合わせて書きましょう。 【注意】・ <u>感想とその理由</u> をはっきりと書くこと。 ・ <u>心に残った文（言葉）</u> を必ず書くこと。文が長い場合は、要約してもよい。 ・ 八十字から百字くらいにまとめて書くこと。 【正答例】 子ぎつねは、反対の手を出してしまったけれど、無事に手ぶくろを買うことができてよかったです。ぼうし屋さんはいい人だと思いました。	感想と理由			69.6	4.3	75
			引用または要約			57.4	4.7	70
			字 数			79.5	4.2	95

(単位：%)

読むこと

問題 大問1 問一 前頁参照

分析 【問一】は、物語の特徴をとらえて、短い言葉を使って適切に見出しを書くことができるかをみる問題である。正答率は59.7%であった。正答は4であるが、1を選んだ誤答が多かった。「読み手を引きつけるような」という条件を見落としていることや、見出しのイメージが感想文の題名と混同されていることが考えられる。

指導のポイント

児童が読みたい本を選ぶとき、または調べ学習で課題の答えを探しながら文章を読むとき、題名や見出しを手掛かりにすることは多い。しかし、そこに表れている書き手の思いや工夫までは、なかなか意識できていないと思われる。「読むこと」の学習で、段落ごとに内容を小見出しにまとめたり、「書くこと」と関連させたりしながら、題名や見出しに目を向けることも工夫したい。

○ 文章の題名や見出し等について考える活動例

◆ 説明文や物語文を読み始めるときに、題名に着目する。

- ☆登場人物に関する題名例
 - ・スイミー
 - ・ごんぎつね
 - ・大造じいさんとガン
- ☆行動や出来事に関する題名例
 - ・のどがかわいた
 - ・初雪のふる日
- ☆主題に関する題名例
 - ・海の命
 - ・一つの花
 - ・平和のとりでを築く
- ☆説明する対象に関する題名例
 - ・じどう車くらべ
 - ・イルカのねむり方
 - ・すがたを変える大豆

◆ 同じ本を読んで書いた感想文の題名を比べる。
「矢部美智代著『かげまる』毎日新聞社」

- ・「かげまる」と私
- ・自分をさがす旅
- ・一人前って何
- ・私の「かげまる」を探して
- ・本当の友達になるために

『『かげまる』を読んで』という題名と比べると、書き手の主張したいことが伝わってくるね。

【全国学校図書館協議会編『考える読書 小学校中学年の部』2006年 参照】

この活動と合わせて、自分で書いた文章の題名や見出しを推敲することも効果的である。



◆ 読み手の目を引きつける言葉を集める。

魅力を伝えたり、読み手に問いかけて期待をもたせたりする言葉ね。



【読み手を引きつける言葉例】

- ・一押しの～。
- ・見逃せない～。
- ・他にはない～。
- ・主人公〇〇の気持ちはとどくのか…。
- ・～しようとするのだが果たして…。
- ・人間って怖いもの？それとも…。

本の帯やポップ、紹介ポスターや広告などに使われている言葉を集め、内容を分類するとよい。

◆ 新聞記事の見出しを考える。

子ども新聞の記事（見出しを伏せたもの）をプリントして配付し、記事の内容や図表などから、見出しを考えるクイズにする。答え合わせをしながら、見出しの役割に気付かせていく。

【見出しの役割】

- ・読み手を引き付ける。
- ・ひと目で記事の内容や要点が分かる。
- ・見出しの文字の大きさで、記事の重要度が分かる。
- ・記事の内容で大切な言葉（キーワード）が入っていることが多い。

分析 【問三】は、文章を注意しながら読み、話のあらすじをまとめることができるかをみる問題である。正答率は40.1%で、誤答は1と4が多かった。1は、指定された範囲の冒頭にくる文と同じであることから、文章全体を読まず、一部分だけで判断していることがうかがえる。また、4を選んだ誤答は、あらすじを紹介する文末と、自分の感想を述べている文末の違いを意識する力の不足が感じられる。

指導のポイント

○ 物語の組み立てをもとにあらすじをまとめる学習

重要

何のためにあらすじをまとめるのか、目的をはっきりさせておくこと

＜本を紹介する言語活動＞
○自分の気に入った本を紹介する場合、例えば、好きな場面や山場を中心に全体のあらすじをまとめる。
○友だちに読んでもらうために紹介する場合、続きの期待をもたせるために、あえて一部分のあらすじをまとめる。

【要約のルール】

- ①書く目的をはっきりさせる
 - ・何のために書くのか
 - ・誰のために書くのか
 - ②分量を決める
 - ・どれくらいの字数で書くのか
 - ③時間を決める
 - ・どれくらいの時間で書くのか
 - ④本文の範囲を決める
 - ・全文か、一部分か
 - ⑤本文以外の絵なども入れるか
 - ⑥文章様式や文体を決める
 - ・本文以外の文章様式をどこまで出すか
 - ⑦文章構成を決める
 - ・もとの構成に近い構成にするか
 - ・自分が書きたい構成にするか
 - ⑧表現の仕方を決める
 - ・もとの書き方を生かして書くか
 - ・自分の書き方に変えて書くか
- 【井上 一郎著『読む力の基礎・基本』 明治図書出版 参照】

【あらすじをとらえる手順例（「ごんぎつね」）】

＜全文を縮めた場合の例＞

※番号は、右図内の番号と対応

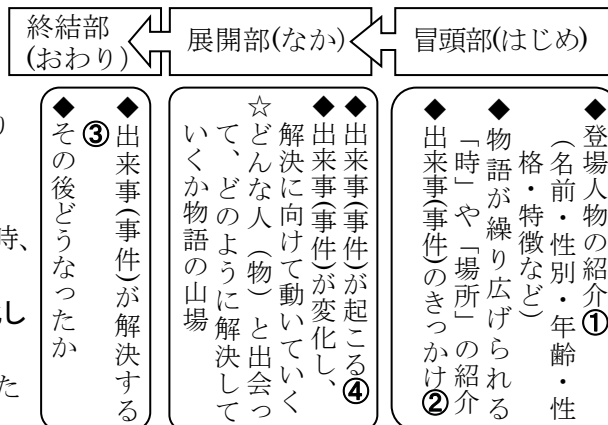
- ①あらすじの主語（中心人物）は？→ごん
- ②中心人物の「はじめ」の行動や考え方は？
→ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、辺りの村へ出て来ていたずらばかりしていた。
- ③中心人物の「おわり」の行動や考え方は？
→ごんは、くりを届けて戸口を出ようとした時、兵十に見つかり、火縄銃で撃たれてしまった。
- ④「なか」で、中心人物の行動や考え方が変化した原因や、きっかけとなった出来事は？
→ある日、ごんは、兵十が一生懸命取ったうなぎをいたずらでぬすんだ。
・ごんは、兵十のおっ母が亡くなったことを知った。
・ごんは、兵十のおっ母に食べさせるためのうなぎだったのだと思い、いたずらしたことをこうかいし始めた。
・ごんは、いたずらのおわびに、いわしやまつたけを兵十に届けるようになった。

⑤文をつなげて、まとめる

このとき、物語の展開を押さえるためにも、ただ単に文を羅列するのではなく、二つの文を一つにしたり、接続語を効果的に使って前後の文をつないだりして書くようにするとよい。

ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、辺りの村へ出て来ていたずらばかりしていた。ある日、兵十が一生懸命取ったうなぎをいたずらでぬすんだが、その後、兵十のおっ母が、亡くなったことを知った。おっ母に食べさせるためのうなぎだったのだと思い、ごんは、いたずらしたことを後悔し始めた。そして、おわびにいわしやまつたけを兵十に届けるようになった。しかし、くりを届けて戸口を出ようとした時、兵十に見つかり、火縄銃で撃たれてしまった。

物語の組み立て



分析 【問四】は、文章を読んだ感想を、条件に応じて書くことができるかをみる問題である。感想と理由が書けているのは 69.4%、引用または要約ができているのは 57.4%、字数が適切なものは 79.5%であった。誤答例を見ると、心に残った文（言葉）が理由として書けていない、感想の文末になっていない、要約部分に字数をかけすぎて自分の感想を述べるための字数が不足してしまっているなどが多かった。条件に応じて書くという経験が不足していることがうかがえる。

指導のポイント

「読むこと」の指導事項「自分の考えの形成及び交流」は、書かれている内容をもとに感想等をもち、伝え合う活動である。低学年のうちから繰り返し行うことが大切である。

1 交流する場面を繰り返し設定する

低学年のうちから交流を繰り返し行うことで、多様な考えや感想があること、考えや感想等を伝え合うことの楽しさを学ぶことができる。心に残った言葉や文にサイドラインを引いたり書き抜いたりしながら、感想を書きとめておく経験などを重ねておきたい。心に残った言葉や文をどのように選ぶのか分からない場合は、範読や読み聞かせをする前に、サイドラインを引く観点等を提示しておくといよい（光村図書の教科書巻末にも掲載されている）。

2 感想の言葉を増やしたり広げたりする指導

右の図のように、楽しさを表す場合でも、「わくわくする」「ゆかいだ」など、いろいろな語彙がある。子どもたちは、このような言葉を学ぶと、「おもしろかった」「かわいそうだった」の他にも、多様な言葉を使い出す。そして、表情が生き生きとし、交流は飛躍的に活発化する。これらの言葉を教室内に常掲したり、プリントで配付したりして、いつでも使えるようにしたい。また、子どもたちが自分で見付けた言葉を書き加えるようにすると、言葉に対する関心が高まり、言葉が広がる。

【感想の観点と表現例】

- 楽しさ：わくわくする うきうきする 元気が出る ゆかいだ
- 喜び：うれしい 幸せに思う 笑いたくなる
- 好き：気に入る うっとりする 思わずにこにこ顔になる
- 怒り：腹が立つ むっとする がまんができない
- 安心：ほっとする すっきりする
- 感動：胸を打たれる じんとする 心が動く
- 驚き：どきっとする 意外だ 予想外だ
- 悲しみ：泣きそうになる 心に穴が開く
- 恐ろしさ：不気味だ ぞっとする ひやひやする
- 恥ずかしさ：きまりが悪い 照れくさい
- 嫌い：悔しい 憎らしい いらいらする

3 感想に自分の経験を結び付ける指導

交流をする際、「なんとなくそう思った」ということではなく、「～だからです。」等の理由も併せて述べるように習慣付けるとよい。叙述を根拠に想像して読むことは、多くの場面でも実践されているため、さらに、低学年の指導事項「文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめる」に記載されているように、自分の経験（生活経験、読書経験等）と結び付けて考えられるようにする必要がある。

主人公の行動は、このシリーズの他の話と比べてどう感じますか？

同じ作者の他の物語を読んだことはありますか？ 何を読んで、どう思いましたか？



主人公のように、悔しい思いをしたことはありますか？ その時は、具体的にどう感じましたか？

主人公のようにうれしかったとき、あなたは、どんなことをしましたか？

4 引用、または、要約をする目的を明確にした指導

目的は何か、引用や要約したものをどのように用いるのかなどを明確にすると、大事な言葉や残す部分、分量などが決まる。「図鑑をつくる」「ポスターやリーフレットにまとめる」などの言語活動を行う際、このような「目的」を意識して、引用や要約するように指導したい。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
2	問一	(1)先生に <u>指</u> されて答えを言う。 (漢字の読み)	さ (指)			82.3	2.0	75
		(2)海で <u>漁</u> をする。 (漢字の読み)	りょう (漁)			83.7	2.9	80
		(3)おむすびを <u>お</u> とした。 (漢字の書き)	落			80.8	4.2	90
		(4)こまっている人に <u>しんせつ</u> にする。 (漢字の書き)	親切	切が書けない 新節 新切		56.3	7.6	85
		(5)魚 <u>いちば</u> に見学に行く。 (漢字の書き)	市場			78.5	5.2	90
	問二	(1) <u>わたしは、駅前の 花屋で 花たばを</u> ア イ ウ エ <u>買った。</u> オ	主語ア	エ		85.6	2.0	90
			述語オ	エ		84.9	2.1	90
		(2) <u>わたしの 母は、ピアノの 先生だ。</u> ア イ ウ エ	主語イ	ア		70.8	2.0	55
			述語エ	ウ		86.5	2.0	80
	問三	次のア～カの熟語の中から、反対の意味をもつ漢字を組み合わせできていものを2つ選んで、その記号を書きましょう。 ア 運送 イ 売買 ウ 登山 エ 絵画 オ 高低 カ 回転	イ売買	ウ ア		87.0	1.9	80
			オ高低			89.5	1.9	80
	問四	次の(1)(2)の文の —— の言葉を国語辞典で調べます。【例】のように、それぞれ、国語辞典にのっている言葉の形に直して書きましょう。 【例】四月だというのに、 昨日は、とても<u>寒かった</u>。 →答え 寒い						
		(1)あの湖は、思った以上に <u>広</u> かった。	広い			95.2	2.7	85
		(2)スピーチで自分の意見を <u>伝</u> えよう。	伝える			90.3	2.9	85

(単位：％)

問題 大問2 問1 (4) 前頁参照

分析 本問は、第4学年までに学習した漢字を文脈に沿って適切に読み、正しく書くものである。「親切」は、他の問題に比べ、正答率が低い。どちらか一方ができずに誤答になっていたものが多い。

問題 大問2 問2 (1) (2) 前頁参照

分析 文中における主語と述語との関係に注目して読むことができるかを見る問題である。昨年度出題された同一問題と比較すると、右図のようになり、主語と述語の理解度は、高まってきているのがわかる。誤答を見ると、主語を選択する際、「わたしの」を選ぶ誤答例が多く、人名や文頭にある「ぼく・わたしの」等が主語であると理解している児童もまだいることがうかがえる。

	23年度	24年度	25年度
正答率	56.6%	62.8%	81.9%
無解答率	6.1%	2.8%	2.0%

指導のポイント

1 文や文章の中で漢字を使う

漢字を書く指導では、同音異義語や類似した字形などを区別して適切に使えるように、文脈の中で活用する指導が大切である。そのためには、それらの漢字を意図的に提示して短文作り等を行う機会を設けるとよい。また、日常的に文や文章の中で漢字を使おうとする態度が身に付くように、漢字を文脈の中で意欲的に使っている児童に対して、機を逃さずに称賛し、漢字を使う楽しさや利便性を意識させるとよい。

2 語彙力を高める

学習した漢字を使った様々な語句を知ることは、語彙力を高める一つである。自主学習の機会等を利用して、学習した漢字が日常生活の中でどのように使われているかを調べるなど、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図る。

3 国語辞典や漢字辞典を活用する習慣を身に付ける

漢字を正しく読んだり書いたりするためには、国語辞典や漢字辞典を積極的に利用して調べる習慣を付けるようにしたい。

このことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習においても重要であり、自分で読み書きのできない漢字や難語句を調べ、繰り返し読んだり書いたりして定着するように日常的に指導することが大切である。

4 様々な文の主語と述語の関係を押さえる

文を正しく理解するには、単文や重文、複文など、様々な文の主語と述語との関係を押さえることが重要である。そのためには、一つの主語が複数の述語に係る文、複数の主語と複数の述語を含む文などを取り上げ、それらの主語と述語の関係を明確に押さえることができるように指導することが大切である。平成23年度全国学習状況調査国語A「2主語と述語を照応する。」などを教材にして指導するとよい。その際、主語と述語との関係を明確にすることが文の意味を正確に理解することにつながるということを意識できるように指導することが必要である。

長い文を読むときには、次の例のように、主語と述語との関係に注意すると意味が分かりやすくなります。

部1から4までの中からそれぞれ一つ選んでその番号を書きましよう。

たくさんの種が 3

わたしは、アサガオの青い 花が次から次へと さいいて、やがて、黒い色を した 2

できるまでの様子を毎日 観察した。 4

ア

イ

部ア・イの述語に当たるものを、

参考：国立教育政策研究所「平成19年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料」

：国立教育政策研究所「平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料」

：国立教育政策研究所「平成23年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料」

(3) 話すこと・聞くこと

大問	問 題	正 答	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率																																			
3	保健委員の田村さんたちは、けがをする人がこれ以上ふえないようにしたいと思い、けがをふせぐために、帰りの会でクラスの友達によびかけることにしました。そこで、次の【保健委員会だよりの一部】をもとに【発表原稿】を作っています。あとの問いに答えましょう。 こうしたけがをふせぐためには、校庭に走って出ないことや、時間にゆとりをもつて行動することが大切だと、ほけんの先生がおっしゃっていました。 ア 【発表原稿】 ほけん委員からお知らせをします。五月は、きんちようがゆるみ、けがが増える時期です。特に多いのは、校庭でのけがです。 例えば、																																								
	問一 あなたが田村さんだとしたら、発表原稿にどのように書きますか。【保健委員会だよりの一部】の①のグラフをよく見て、前のページの【発表原稿】の「例えば」に続く ア の内容を考えて次の【注意】に合わせて書きましょう。 【注意】 ・実際に話すように書くこと。 ・一マス目から、四十字～六十字くらいで書くこと。 問二 帰りの会で話す時に、聞き手に分かりやすく説明するためのくふうとして、ふさわしいものを次の1～5の中から二つ選んで、その記号を書きましょう。 1 説明のとちゅうで、表やグラフをしめしながら話す。 2 聞き手が、話の内容に集中できるように、間をおかずに続けて話す。 3 話が伝わっているかどうか、聞き手の顔を確かめながら話す。 4 聞き手に内容がよく伝わるように、最初から最後まで同じ調子で話す。 5 聞き手にたくさんのかを伝えたいので、できるかぎり早口で話す。		<table><tr><td colspan="5">問一</td></tr><tr><td colspan="5">※正答について 下枠に採点基準とともに記述</td></tr><tr><td>(内容)</td><td></td><td>55.4</td><td>5.4</td><td>50</td></tr><tr><td>(敬体) (字数)</td><td></td><td>67.5</td><td>5.4</td><td>75</td></tr><tr><td colspan="5">問二</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>86.7</td><td>2.6</td><td>80</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>58.1</td><td>2.6</td><td>75</td></tr></table>				問一					※正答について 下枠に採点基準とともに記述					(内容)		55.4	5.4	50	(敬体) (字数)		67.5	5.4	75	問二					1		86.7	2.6	80	3		58.1	2.6	75
	問一																																								
※正答について 下枠に採点基準とともに記述																																									
(内容)		55.4	5.4	50																																					
(敬体) (字数)		67.5	5.4	75																																					
問二																																									
1		86.7	2.6	80																																					
3		58.1	2.6	75																																					
問一について 【正答】 「①のグラフにあるように、転んですりきずをつくった人が十八人、ぶつかって打ぼくをした人が十六人もいました。」 【採点基準】 ①けがの種類や人数等、グラフから読み取れる情報が書かれている。→ 1点配当 ②話し言葉で書かれ、字数が守られている。→ 1点配当 ※ 2、3文字の過不足は可とする。																																									

(単位：％)

問題 大問3 問二 前頁参照

分析 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができるかをみる問題である。決められた字数内で実際に話すように丁寧な言葉を用いることは67.5%と比較的よくできているが、内容に関しては55.4%と低くなっている。誤答例を見ると、設問の意図が捉えられておらず、グラフを読み取ったことでなく自分の考えや経験から書いているものや、【発表原稿】の他の部分の内容も入れてしまっているものが多く見受けられた。

指導のポイント

中学年では、具体的な場を意識して話すために、学習指導要領で「相手や目的」に応じることを示している。伝えたい目的や内容をより明確にする必要がある。内容をより明確にするためには、伝えたいことだけでなく、なぜそのような考えになったのか、という「理由や事例などを挙げながら筋道を立て」て話す力を付けることが求められている。

1 相手や目的に応じて、読み取ったことを基に話したり聞いたりする指導

図表や絵、写真などの資料を取り上げ、そこから読み取ったことを基に話したり聞いたりする言語活動を取り上げ指導することが大切である。目的に応じた効果的な情報の取り出し方や、得た情報から自分の考えをもつことなどが求められる。同じグラフでも相手や目的に応じて説明や報告する時に事例としてどのように取り上げたら分かりやすいのか、いくつかの例を示し比べさせたり、考えさせたりするなどの指導を行うとよい。

2 「分かりやすい説明」にする指導

「分かりにくい説明」のモデルを分析し、モデルを分かりやすい文章に直すことで、「分かりやすい述べ方のポイント」を考えさせるようにするとよい。

【分かりにくい説明】

保健委員からお知らせをします。五月は、きんちょうがゆるみ、いろいろな所でのけが増える時期です。走って校庭に出ると、けがをしてとてもきけんです。
けがをふせぐために、休み時間は気をつけてすごしましょう。



けが増えるようだけど、どれくらいの人数なのかな？

学習課題「分かりやすい説明にしてみよう！」

【分かりやすい説明】

保健委員からお知らせをします。五月は、きんちょうがゆるみ、教室、廊下、校庭などいろいろな所でのけが増える時期です。特に多いのは、校庭でのけがです。このグラフを見てください。これは、去年5月に校庭でおきたけがについてまとめたグラフです。どんなけがが、多いでしょうか。

例えば、転んですり傷をつくった人が、18人、ぶつかって打ぼくした人が16人、落ちて打ぼくした人が10人、転んで打ぼくした人が8人いました。

このように、1ヶ月間にこんなに多くの人が、けがをしています。こうしたけがをふせぐためには、校庭に走って出ないことや、休み時間にゆとりをもって行動することが大切だと、保健の先生がおっしゃっていました。

本当だ。18人とか、16人とか……。多いね。
具体的な例を出してくれると分かりやすいね。



3 音声化に関する指導

スピーチの指導をする際、音声化する時の指導も充実させたい。以下に、学習指導要領解説から、具体的な指導事項を抜粋する。

- ・低学年：姿勢、口形、声の大きさ、速さ、はっきりした発音
- ・中学年：相手を見る、言葉の抑揚、強弱、間の取り方
- ・高学年：場に応じた適切な言葉遣い(音声上の工夫以外にも、音声の使い方、表情、しぐさ等を含む)

スピーチ原稿に記号等を書き入れて、音声化の仕方を工夫する活動を組むことは、実際に話すことを意識させる上で効果的である。

その他の「具体化」の方法

- 図表や絵、写真、グラフなど見せて説明する。
- 文献等を引用したり、エピソードを例示したりする。
- 実物を見せる。
- 音声や映像を活用する。
- その場で演示してみせる。

<実感を持った指導を！> 実際に自分がどのように話しているか、ボイスレコーダーやデジタルカメラの動画機能等の視聴覚機器を使って、言葉の抑揚、自分が話す時の視線、身振りや表情などを客観的に知ることが大切です。



(4) 書くこと

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
4		谷口さんは、他市の学校の人たちに、さいたま市のことを知ってもらうために、伝えたいことを三つ選んでしょうかいする文章を書きます。 ア・イの小見出しのように、ウに入るふさわしい小見出しを書きましょう。	さいたま市の代表的なしせつ	・さいたま市のしせつ ・さいたま市の名所 ・さいたま市の主なしせつ ・さいたま市の3つのしせつ		50.5	4.0	65
5	ア	石川さんは、料理クラブでホットケーキを作り、その報告文を学級のクラブコーナーに書きました。友達から作り方を教えてほしいと言われたので、友達のために〈ホットケーキの作り方〉という説明書を書きました。次の【報告文】の中の言葉を使って、【説明書】の「3 作り方」の ア と イ に入るふさわしい文を書きましょう。	フライパンを熱して、うすく油をひく。	・フライパンを熱して、うすく油をひきます。 ・フライパンを熱して、うすく油をひきました。 ・次に、フライパンを熱して、うすく油をひく。 ・フライパンを熱する。		56.1	4.8	70
	イ		生地を丸く流し入れ、3分焼く。	・生地を丸く流し入れ、3分焼きます。 ・生地を丸く流し入れ、3分焼きました。 ・そして、生地を丸く流し入れ、3分焼く。 ・3分焼く。		50.6	5.6	70

(単位：％)

問題 大問4 前頁参照

分析 文章の内容に合わせて小見出しを書く問題である。自分の住むさいたま市を紹介する文章を取り上げ、紹介する項目の内容に合わせて小見出しを書く問題で、平成 20 年度の全国学力・学習状況調査の国語 A を参考に作成した。正答率は、50.5%であった。

解答するには、**ア・イ**の小見出しの構文に合わせて、1 文目の必要な部分を取り出し、文末を体言止めにして書くことが求められる。誤答を見ると、必要な部分を取り出すことはできていても、文末表現に課題があることが分かる。

指導のポイント

1 端的に表現する力を高める指導

小見出しを書くためには、文章の内容をとらえた上で内容を要約し、短い言葉で表現する力が求められる。また、言葉の使い方についても関心をもち、相手に応じて文末や文体などの表現方法を工夫する力が必要である。

○ 言葉の使い方に関心をもつようにする指導

【指導例】① 新聞などの小見出しやタイトルを集め、「面白い」「真似してみたい」と思ったものを出し合う。

② 小見出しやタイトルを作る時のポイントをまとめ、共通理解を図る。

ポイント：読み手を引き付けるために、魅力的な言葉を使ったり、倒置法や体言止め、呼びかけなどを使ったりすること 等



まとめたものは、配付資料や掲示物としていつでも確認できるようにし、活用を図るとよいですよ。

○○の仕方 どう教える？
 ○○を守り 三十年
 ○○のつぶやき 届けたい
 ○○口火、○○逆転勝ち
 ○○なぜ、日本に根付いた？
 美しさの秘けつは○○にあり
 ○○の七つのアイデア
 居心地のよい○○
 変化し続ける○○
 いつでも新しい○○があります
 ○○からのイチ押し

**まねてみたい小見出しや
タイトル**

【掲示例】

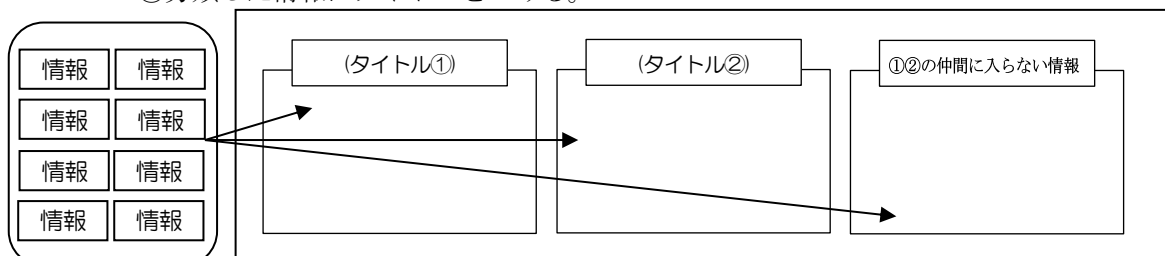
○ 短い言葉で表現する力を高める指導

【指導例】① テーマを決め、情報を集める。

② 集めた情報を分類する。

※二つの大きな仲間と「その他」程度に分けると、短時間で分類できる。

③ 分類した情報にタイトルをつける。



※①や②の仲間に入らない情報が多くなりすぎないように分類し、仲間分けした理由をタイトルにしていく。

※児童が分類した例 「〇年〇組の好きな食べ物」を調べるために、情報を分類しタイトルを付けたもの

おなかのすきににくいもの

ハヤシライス	すし	からあげ
焼肉	肉	あげパン
グラタン	オムライス	おにぎり
お好み焼き	カレーライス	

中から汁が出てくるもの

メンチカツ	ぶどう	うめぼし
トマト	フルーツ	もも
ぎょうざ	肉まん	ハンバーグ

(1)(2)の仲間に入らない情報

ゴーヤチャンプル	ラーメン
チョコレート	シュークリーム



「おなかのすきににくいもの」「中から汁がでてくるもの」というタイトルをつけ、情報を分類しました。だから、「〇年〇組の好きな食べ物は、『おなかのすきににくいもの』と『中から汁がでてくるもの』というまとめにしました。

このような活動を様々な場面で繰り返すとよいですよ。



2 条件や目的に応じて適切に書く力を高める指導

条件に基づいて適切に書く力や目的に応じた文章の書き方に関する技能を身に付けるためには、字数や構文などの条件に即して書く指導が大切である。また、目的に応じた文章構成のポイントを「モデル文の比較」などの主体的な活動を通して習得していくことが重要である。

○ 条件に合わせて適切に書く力を高める指導

新出漢字を学習する際や「漢字の広場」を利用して、短文作りをするとよい。

【短文作りの条件例】・自分を主語にして書き出すこと

・26字以上31字以内の字数で文を作ること

・文末は「～する」「～だ」にすること など

○ 文章様式に応じて適切に書く力を高める指導

＜実践例＞单元名 提案書を書こう (光村図書 国語 五 銀河 p.146「わたしたちの『図書館改造』提案」より)

＜提案書を書くポイント＞

「問題点」「提案」「提案の効果」で構成する。

箇条書きにする。

「問題点」には、「問題点」「提案の方向性」を書く。

小見出しを使い、提案の中身がすぐ分かるようにする。

「提案」には、「具体的な提案内容」を書く。

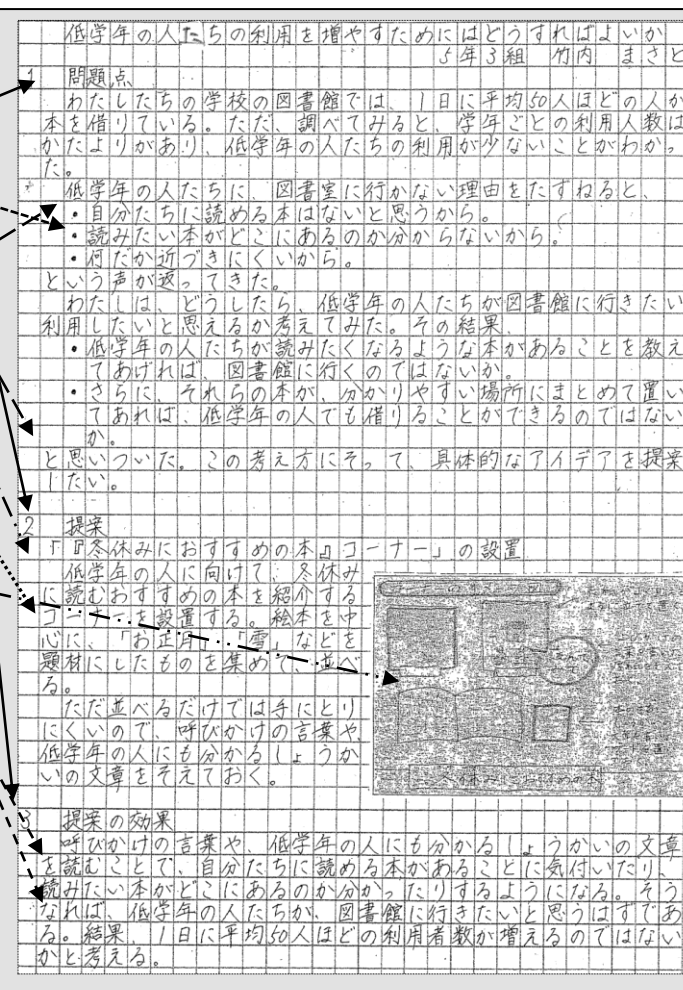
絵や図を入れ、提案のイメージをつかみやすくする。

「提案の効果」には、「よさ」「実現した時の効果」を書く。

文章様式にはそれぞれ文章構成の特徴がある！

重要

ポイントをより明確にするためには、他の様式の文章構成と比較するとよい。



分析 目的や様式に応じて必要な事柄を選び、文章を書き換える問題である。「ホットケーキを作りました」という報告文を基に、「ホットケーキの作り方」の説明書に書き換える問題で、平成19年度の全国学力・学習状況調査の国語Aで出題されたものを参考に作成した。正答率は、アは56.1%、イは50.6%であった。

報告文には、作り方の手順の他、思ったことや感じたことも書かれている。解答するには、事実と感想を読み分けて説明に必要な事柄を選ぶこと、作る順序を考えて文章を箇条書きに書き換えること、構文に合わせて書くことが条件となる。誤答を見ると、説明に必要な事柄が足りなかったり、文末が構文に合わなかったりしているものが多かった。

指導のポイント

1 事実と感想、意見を分けて書く指導

高学年では、事実と自分の感想、意見などを区別して書くことを重視する。また、その目的や意図に応じて、詳しく書いたり簡単に書いたりするなど、事実と感想、意見のそれぞれの記述の仕方を考えて書くと、読み手にとって読みやすい文になることを理解させるとよい。

2 目的や意図に応じた表現様式を活用する指導

目的や意図に応じた多様な表現様式があることや、様式に伴った内容や構成についての知識を習得すること、そして、目的や意図に応じてそれらを使い分けるよう指導することが重要である。代表的な様式について、以下に紹介する。

様式	説明と解説	感想や意見	紹介と推薦	報告
表現様式	説明は、内容や機能、理由など、様々な問いかけに答えるものである。解説は、説明よりも一層主体的で、取り上げた対象の背景や外の資料などを活用し分析的に説明するものである。	対象を捉える読者の視点から見て、一定のまとまった考えが表明されるものである。それほど他の資料や調査を経ないで感想や意見はまとめられる。	紹介は、単に知識や情報を与えるだけの時もあるが、推薦は、より主体的な関わりを求められる分だけ推薦者にも責任がかかってくる。	調べ学習などの完成段階としてまとめるものに活用される。

【井上一郎著『誰もがつけたい説明力』明治図書出版 参照】

3 構文を合わせて書く指導

新聞や報告書、パンフレットを書く際の小見出しが同じような構文になるよう、繰り返し指導していくことが大切である。

【実践例】単元名 社会科見学で役立つパンフレット作ろう（光村図書6年）

※児童が作った小見出し

国会議事堂

見て得！
議事堂の豪華な造り

知って得！
役割ごとにちがう部屋

行って得！
分かりやすい展示コーナー

工夫点：「〇〇して得！」を必ず最初を書く。文末は体言止め。

江戸東京博物館

え？ どんな博物館？
こんな博物館！

え？ これちっちゃい人間？
いやいや模型！

え？ 中には何が？
歴史のいろいろが！

工夫点：「え？ 〇〇？ △△△！」という書き方で統一する。
〇〇の答えが△△△になるようにする。